

病」とも言われる慢性腎臓病（CKD）。CKDは「腎炎」「糖尿病」「高血圧」など様々な原因によって起こりますが、近年では「メタボリックシンドローム」や「糖尿病」などの生活習慣病によるものが増加しています。しかも、自覚症状がないため自分では気づきにくく、じわじわと及び寄る怖い病気です。今回のセミナーでは、慢性腎臓病とはどんな病気かをはじめ、その対策や食事療法などについて専門の先生方に分かりやすくお話しいただきました。また、糖尿病についても熊本での取り組みを紹介していただきました。

最初の講演は、熊本大学医学部附属病院腎臓内科講師の中山裕史先生から「慢性腎臓病と塩分・タンパク制限」と題して、慢性腎臓病の進行抑制のために重要となる塩分・タンパク制限について講演をいただきました。

講演の二番目は、熊本大学医学部附属病院代謝・内分泌内科助教の本島寛之先生から「熊本における糖尿病対策」について、熊本における糖尿病対策について、健康寿命延伸を目標とする「熊本の生活習慣病・糖尿病対策」について分かりやすく講演をいただきました。

講演の三番目は、熊本大学医学部附属病院栄養管理部栄養管理室主任栄養士の長瀬博美先生から「慢性腎臓病における食事療法のコツ」と題して、家庭でも自己管理ができるように食事療法のコツについて講演をいただきました。

講演終了後の総合討論・質疑応答では、講演者全員が登場し、あらかじめ寄せられた質問と会場からの質問に講演者が答える形で行いました。また、最後に個別相談コーナーが設けられ、講演者への多

数の個別相談が行われました。約四〇〇人の来場者があり、内容を、三月十二日の熊日新聞紙面に掲載しました。

総合生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療・学術記事の執筆・監修

副理事長 山本 哲郎

平成二十六年度も、熊本日日新聞社発行の総合情報紙「あれんじ」（タブロイド判十六頁三万五部発行）の第一土曜日の十面と十一面の見開き二頁について肥後医育振興会が執筆・監修を行い、医療・医学並びに医学に隣接した学問分野の学術情報を県民に提供しました。メイソンの記事として医学医療関連の「元気の処方箋」を八回（五、六、八、九、十一、十二、二、三月）、また、周辺の学術記事「熊遊学ツアーリズム」を四回（四、七、十、一月）掲載しました。前者は、熊本大学本荘キャンパスの医学系の先生方に、また後者は、主に熊本大学黒髪キャンパスの先生方に担当していただきました。「元気の処方箋」では、読者層が厚い主婦の皆様方にとってより身近な題材を選んでみました。それぞれのテーマを下記に記載しております。それぞれの頁にコラム欄を設けていますが、「元気の処方箋」の際は「子育て応援クリニック」と「慈愛の心医心伝心」を、また「熊遊学ツアーリズム」の際には「四季の風」と「熊本まつり探訪」を掲載いたしました。なお、これらの全ての記事を「肥後医育振興会」のホームページに掲載しております。どなたでも自由に読めるようになっております。「慈愛の心医心伝心」などは読者からの読後感想が毎回のよう

に熊日新聞社に寄せられているそうですので、皆様、ぜひホームページもご覧下さいませ。

- 五月 「元気の処方箋」
「実は生活習慣病！」正しく知りたい顎関節症
- 六月 あなたは正しく装用、ケアしていませんか？ 増えるコンタクトレンズ眼障害
- 八月 食事の欧米化に伴い増えてきた逆流性食道炎
- 九月 そのとき慌てないために！ くまもとの救急医療Q&A
- 十一月 男性に多い高尿酸血症・痛風加齢のせい？ それとも病気の改善したい頻尿
- 十二月 治療、適度の運動で進行を防ぎたいパーキンソン病
- 三月 「ちよつと」のことを、きちんとすれば、効果が得られる」運動指南
- 四月 「熊遊学ツアーリズム」
民事訴訟法で問題解決能力を身に付けよう
- 七月 フラスコ内で未知との遭遇！有機化学の醍醐味
- 十月 建築の歴史を語るフィールドワークの面白さ
- 一月 多世代、他文化との交流が力ギーコミュニケーションの磨き方

「第五回熊本県医療人育成総合会議」の開催

副理事長 山本 哲郎
「熊本県医療人育成総合会議」の趣旨は、日本の医療需要がピークを迎える

される二〇三〇年に向けて、熊本における医療の能力をいかにして高めていくかを、医療界・医育界をあげて知恵を出し合っているというものです。

さて、現代医学の修得においては膨大な知識の取得を要するため、学生たちには日々たゆまぬ勉学が求められます。さらに、高学年になると、病院などの医療施設における長期実習で、学生たちは病む人々の厳しい実態を初めて見るとともに、それに対処するための医療・介護技術や精神心理手法を真剣勝負の中で教育されていきます。このような医療人への学習過程において学生たちは大きな心理的ストレスにさらされるため、一時的なメンタル障害に陥ることは少なくなく、進路の変更にも悩むケースも出現します。このような学生のメンタル障害をいかにして予防し、また障害に陥ってしまった場合にはいかにサポートするのか。今年度の「第五回熊本県医療人育成総合会議」では、医療人育成過程でのメンタルヘルスクエアを課題としました。

実行委員…遠藤文夫（実行委員長）、岩谷典学、上田信之、宇佐美しおり、岸川秀樹、木原信市、興梠博次、児玉公道、辻野智二、齋田和孝、松下修三、山本哲郎、事務局…永田正次、鶴山敏哉、長澤功、山下泰弘

テーマ 「医療人育成における学生のメンタルヘルスについて」

日時 平成二十六年十一月八日（土）
午後一時三十分から四時三十分

場所 熊本大学医学部キャンパス 医学教育図書棟第一講義室

司会…熊本大学エイズ学研究センター 教授 松下修三氏